

国語科学習指導案

東広島市立高屋中学校 居川あゆ子

1 学年： 第1学年

2 単元名： 情報を読み取り、活用しよう

3 教材： 三宮麻由子「ユニバーサルな心を目指して」(『現代の国語1』三省堂)

4 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元では、学習指導要領「C読むこと」の、指導事項イの「目的や必要に応じて要旨をとらえること」、指導事項カの「目的に応じて必要な情報を読み取ること」の能力の育成をねらいとしている。また、生徒自身のものの見方や考え方を広げようとする態度を育成することもねらいとした。これらの能力や態度を育成するにあたり、本教材を取り上げる意義は次のとおりである。

一つ目は、上記の能力を育成するのに適している点である。本教材は、文章の展開が明快で、筆者の主張も具体的で簡潔である。そのため、目的や必要に応じてキーワードを選択、整理しやすく、上記の能力が育成できると考える。

二つ目は、上記の態度を育成するのに適している点である。筆者自身に視覚障害があり、その具体的な体験に基づいて語られる内容は、リアリティーがあり、切実である。福祉・人権を直接話題にした学習材であり、他者への配慮を考える等、生徒の視野を広げるきっかけとなるであろう。

また、本教材に関連する図書も多くあるので、図書館の機能を活用し、生徒の日常の読書活動を広げることができる単元であると考える。

(2) 生徒観

要旨は、一般的に、キーワードやキーセンテンスを選択し、まとめて記述することによってとらえられると考えられている。そこで、目的や必要に応じて要旨をとらえる力に関する調査を行った。文章の中のキーワードに線を引いたり抜き出したりするなど、目的や必要に応じて情報を選択する問題の正答率は86%で、おおむね満足できる結果であった。しかし、選んだキーワードの価値や関係を考えまとめるなど、目的や必要に応じて情報を整理する力は75%であった。ここから分かる課題は以下の二点である。

一つ目は、学習課題の内容を理解し、それに応じた視点を持つことができていない点である。そのため、キーワードを選択する視点が定まらず、適切に情報を選択することができない点である。

二つ目は、情報の価値や関係を考え、整理する力が不十分な点である。そのため、選んだキーワードの中から重要なものを選んだり、その関係を正しくとらえ整理し、文章にまとめたりすることができない点である。

また、事前のアンケートで、「本を読むのは好きですか」という問い合わせに、肯定的な回答をした生徒は、91%であり、読書好きな生徒が多いという結果が出た。しかし、一か月に読む本の冊数を尋ねると、3

冊以下の生徒が、51.5%で半数を超えていた。読まないと答えた生徒も1名(2.8%)いた。また、普段の学習で必要な情報を得るために図書室を利用するという生徒は57.6%，図書室での情報収集の方法を知っていると答えた生徒は54.1%であった。いずれの結果も十分とはいえないが、読書活動の充実に向け、課題があることがはっきりした。

(3) 指導観

「中学校学習指導要領解説国語編」には、「目的や必要に応じて要旨をとらえる」について、「大まかに内容をつかんだり、人に紹介したりするなど」と、実生活の具体的な場面が示されている。これは、中央教育審議会答申(平成20年1月)に、国語科の改善の基本方針として、実生活で生きてはたらく国語の能力を身に付けることが示されたことなどに基づくと考える。したがって、要旨をとらえる授業では目的や必要に応じた学習活動を展開させていくことが重要になる。そこで、「読書レシピ(読書案内)づくり」と、「ブックトーク(図書紹介)」の二つの学習課題を設定する。これは生徒に、「目的や必要に応じる」とは何かを理解させ、課題に応じた視点を持たせるためである。

なお、要旨をとらえる場面では、情報の価値や関係を考え整理する方法として有効な、図式化の手法を用いる。また、集めた資料の中から必要な情報を読み取る場面では、文章の中で必要だと思った部分に印を付したり、必要な部分を抜き書きしたりしながら読み進めることや、一冊の本を最後まで読む、大事な箇所を読む、多くの本に目を通すなどの様々な読み方を学習活動に取り入れる。

5 単元の目標

○文章の内容や要旨を的確にとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。

【国語への关心・意欲・態度】

○学習課題に応じて、要旨をとらえることができる。

【C読むこと(1)イ】

○学習課題に応じて、単元の学習に関連した図書から必要な情報を読み取ることができる。

【C読むこと(1)カ】

○事象や行為などを表す語句について理解を深めるとともに、文章中の語彙について関心を持つことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(ウ)】

6 単元の評価規準

国語への关心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・文章の内容や要旨を的確にとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。	・学習課題に応じて、要旨をとらえている。 ・学習課題に応じて、単元の学習に関連した図書から必要な情報を読み取っている。	・事象や行為などを表す語句について理解を深めるとともに、文章中の語彙について関心を持っている。

7 本单元を貫く言語活動

学習課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。(ブックトーク)

8 指導と評価の計画 (全7時間)

次 時	学習内 容	評 値				評価方法
		閲	読	知	評価規準	
一 1	○「だれもが生活しやすい社会」とはどんな社会か考えながら、単元の目標を確認する。 ○「ユニバーサルな心を目指して辞典」を作成する。	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容や要旨を的確にとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 自己評価カード 発言の確認
	○教材文を読み、「『ユニバーサルな心を目指して』を読む13の視点」(ワークシート)を考える。				<ul style="list-style-type: none"> 事象や行為などを表す語句について理解を深めるとともに、文章中の語句について関心を持つことができている。 (言語についての知識・理解・技能) 	
二 3	○学習課題1 読書レシピの作成 <ul style="list-style-type: none"> 文章全体を図式化する 図をもとに、読書レシピを完成させる。 	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容や要旨を的確にとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度) 	<ul style="list-style-type: none"> 発言の確認 読書レシピ ワークシート 自己評価カード
	○学習課題2 ブックトーク テーマ「だれもが生活しやすい社会」				<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に応じて、情報を選択したり整理したりすることで、目的や必要に応じて要旨をとらえている。 (読む能力) 	
	・読書活動推進委員のブックトークを見て、その方法について学び、ブックトークの原稿を作成する。(本時) ・ブックトークの練習を行う。				<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に応じて、単元の学習に関連した図書から必要な情報を読み取っている。 (読む能力) 	
4 ・ 5	・ブックトークを行う。読書活動推進委員による審査を行う。	◎			<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容や要旨を的確にとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度) 	<ul style="list-style-type: none"> 発言の確認 自己評価カード
6	・ブックトークを行う。読書活動推進委員による審査を行う。					
三 7	○学習の振り返りを行う。 ・「『ユニバーサルな心を目指して』を読む13の視点」に加筆する。学びの成果と課題を交流する。	◎			<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容や要旨を的確にとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度) 	<ul style="list-style-type: none"> 発言の確認 自己評価カード

注 1) 太字は主に図書館の機能を活用する授業である。

2) 事前の課題として、生徒は教材文と関連する図書を一人一冊冬期休業中に読んでいる。

9 本時の学習

(1) 本時の目標

学習課題『ブックトークの原稿を作る』に応じて、要旨をとらえることができる。

【C読むこと(1)イ】

(2) 観点別評価規準

観 点	評 価 規 準
国語への関心・意欲・態度	・文章の内容や要旨を的確にとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
読 む 能 力	・学習課題に応じて、情報を選択したり整理したりすることで、目的や必要に応じて要旨をとらえている。(読む能力)

(3) 本時の学習展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
導入	1 学習課題2(「だれもが生活しやすい社会」をテーマにブックトークを行う。)と、課題解決のための手順を確認する。 2 本時の学習目標を確認する。	○ブックトークの原稿を作ることは、要旨をとらえる力を高めることにつながることを説明する。		
	ブックトーク の原稿を作ろう			
展開	3 読書活動推進委員によるブックトークを見て、ブックトークの原稿を作るポイントを考える。 ・ブックトークの構成(「はじめ・中・まとめ・むすび」)を確認する。 ・ブックトークを見る。 4 「中」の内容に関して気付いたことを発表する。 5 「ユニバーサルな心を目指して」のブックトークの原稿を作る。(班学習) ・ブックトークに必要な情報を確認する。 ・図から、ブックトークの文章を作成する。	○ブックトークに必要な情報を意識して見るように指導する。 ○文章全体の図から、ブックトークに必要な情報を選択・整理させる。	学習課題に応じて情報を選択したり、整理したりすることで、目的や必要に応じて要旨をとらえている。 (読む能力)	発言の確認 ワークシート
まとめ	6 授業を振り返り、自己評価カードを記入する。 ・ワークシートと自己評価カードの提出 ・次回の指示	○「だれもが生活しやすい社会」について考えたことなどを書きせる。	文章の内容や要旨を的確にとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	自己評価カード ワークシート

注 ブックトークの指導に関しては、市毛勝雄(2010)『学校図書館・読書活動の育て方』(明治出版)を参考にした。